

京都女子大学

生活福祉学科紀要 第4号

Journal of Living and Welfare
Kyoto Women's University No.4

京都女子大学家政学部生活福祉学科

Department of Living and Welfare
Faculty of Home Economics
Kyoto Women's University

February 2008

生活福祉学科紀要

第 4 号

目 次

総 説

4年制大学における介護福祉教育の社会的意義
..... 井上千津子..... 1

心臓疾患と心理状態
..... 中村 保幸..... 7

研 究 紹 介

酸化染毛剤の染着メカニズム (その1)
..... 上甲 恭平..... 11

資 料

中学校における障害のある生徒の体育授業に関する研究—近畿地区の実態調査から—
..... 下村 雅昭, 金山 千広, 山崎 昌廣..... 19

原 著 論 文

介護事故にみるリスクの本質とサービス範囲の限界
..... 山田 健司..... 27

在宅から施設への『生活の連続性』と家族介護者の関連性について
..... 鈴木 依子..... 37

社会福祉専門職の援助基盤としての人間観の検討
..... 岡崎 利治..... 45

研 究 ノ ー ト

高齢者在宅支援におけるニーズアセスメントの適正と援助効果との関連について
..... 田中由紀子..... 55

介護福祉士実習教育における倫理教育の課題—学生の実習自己評価と倫理観について—
..... 遠藤 清江..... 63

公開講座：—医療・介護労働と外国人政策—人口減少超高齢化社会への方策
..... 73

生活福祉学科教員の研究活動等
..... 89

生活福祉学科教員の研究活動等

(2007・1～12)

各教員の研究活動等については、2007年12月15日現在、本人の申告に基づくものを掲載している。

井上千津子教授

総説・解説

1. 「介護職の職業教育（特集 介護職の労働環境—めざすべき未来像とは）」, 総合ケア, Vol. 17 No. 6, pp. 58～63 (2007). 6月
2. 福祉セミナー, 介護の役割と方法 (NHK 出版局), 9月 (2007). pp. 55～69

研究発表

【国内学会】

1. 井上千津子, 笠原幸子; ヘルパー利用を規定する要因に関する研究, 日本介護福祉学会, 10月, (2007).
2. 看護と介護の異同, 日本医療・保健・福祉学会, 新潟市, 11月 (2007).

講演

1. 「介護福祉学の構築に向けて」, 日本介護福祉士会, 広島市, 11月, (2007).
2. 「老後を安心してゆだねられる地域社会の創造」, 石川県白山市 福祉大会, 白山市, 8月, (2007).
3. 「ホームヘルプサービスの「職」としての確立」, 倉敷市在宅介護サービス協会 倉敷市, 9月, (2007).
4. 「在宅介護の課題と展望」, 京都府老人福祉施設協会, 京都市, 11月, (2007).
5. 京都ウイングスセミナー「いきいき生きる老後生活」 京都市, 6月, (2007).

講義等その他の活動

本願寺新報「楽に生きる」毎月連載
NHK 学園福祉セミナー『介護概論』講義

遠藤清江講師

論文

1. 遠藤清江; 生活文化と介護福祉援助の関係についての一考察, 京都女子大学生生活福祉学科紀要, 第3号, pp. 39～46 (2007).

総説・解説

1. 「社会福祉士国家試験解説集」共著 中央法規出版, 執筆担当部分「介護概論」問題, pp. 143～146, 7月 (2007).

講義等その他の活動

東洋大学人間科学総合研究所客員研究員
社会福祉法人大崎福祉会評議員

岡崎利治助手

著書

1. 岡崎利治, 太田貞司・國光登志子 編集「対人援助職をめざす人のケアマネジメント—高齢者のケアマネジメント事例—認知症高齢者の在宅生活支援, pp. 120～125」分担執筆, みらい, 4月 (2007).
2. 岡崎利治, 杉本敏夫・東野義之・南武志・和田謙一郎 編集「ケアマネジメント用語辞典 [改訂版]」分担執筆, ミネルヴァ書房, 12月 (2007).

論文

1. 岡崎利治, 片岡靖子; 特別養護老人ホームにおける終末期ケアの現状と課題—A 県下における施設職員への調査から, 京都女子大学生生活福祉学科紀要, Vol. 3, pp. 47~51 (2007).

下村雅昭教授

論文

1. 千葉真理子, 下村雅昭, 浜崎 博; 居住区内維持期リハビリテーション参加者の不安感と経済的負担度に関する調査, 心臓リハビリテーション, Vol. 12 No. 1, pp. 149~153 (2007).
2. 横山由貴代, 中川香須子, 浜崎博, 下村雅昭, 森本茂, 中川久恵, 中川信, 横山浩一; 知的障害者の歩行困難と足部障害, 日本フットケア学会誌, Vol. 1 No. 1, pp. 3~7 (2007).
3. 金山千広, 下村雅昭, 山崎昌廣; 小学校における障害のある児童の体育授業に関する研究—近畿地区の実態調査から—, 聖和大学論集, Vol. 35 No. 1, pp. 51~61 (2007).

Review・Proceedings 等

1. 「Sports program for patients with ischemic heart disease in Japan」, Japanese Journal of Adapted Sport Science, Vol. 5 No. 1, pp. 3~8 (2007).
2. Mariko Chiba, Masaaki Shimomura, Hiroshi Hamazaki; Attitude toward Social Welfare Services among Ischemic Heart Disease Patients, Proceedings of 9th ASAPE 2006 Contribution of Adapted Sports to Society, pp. 63~68 (2007).
3. 千葉真理子, 下村雅昭, 浜崎博; 介護保険改正に見る心臓リハビリテーション患者に対する長期ケアの可能性について, 運動療法研究会誌, Vol. 9 No. 1, pp. 10~12 (2007).

研究発表

1. 下村雅昭, 浜崎 博; 高齢心疾患患者の歩行時足圧と歩行能力及び活動量の関係, 第 71 回日本循環器学会総会・学術集会, 3 月, (2007).
2. 千葉真理子, 羽田龍彦, 下村雅昭, 浜崎 博; 心臓リハビリテーション参加者の抑うつと社会経済的状況に関する調査, 第 13 回日本心臓リハビリテーション学会, 7 月, (2007).
3. 杉本寛恵, 下村雅昭, 羽田龍彦, 殿城晴美, 増田大輔, 浜崎 博; 第 13 回日本心臓リハビリテーション学会, 7 月, (2007).

学会等の活動

1. 日本体育学会アダプテッドスポーツ科学分科会評議委員
2. 日本障害者体育・スポーツ学会誌「障害者スポーツ科学」編集委員

上甲恭平教授

著書

1. 小石貞純, 樽松一彦 監修「ナノテクノロジー時代の含浸技術の基礎と応用: ケラチン繊維の濡れ性と溶媒および溶質の浸透性 pp. 303~312」(分担執筆) (株)テクノシステム, 4 月 (2007).

論文

1. 岡部孝之, 濱田州博, 清水麻巳, 松本史, 上甲恭平; セラック処理クロイ防縮加工羊毛の酵素分解性と染色性, 繊維学会誌, Vol. 63 No. 3, pp. 60~67 (2007).
2. 岡部孝之, 笠井大輔, 小林菜由, 椎名俊彦, 竹田満美, 濱田州博, 上甲恭平; 防縮加工羊毛の酸性染色に及ぼす助剤効果, 繊維学会誌, Vol. 63 No. 5, pp. 123~129 (2007).
3. 上甲恭平, 桑原里実, 吉勝友美, 坂田佳子; 羊毛繊維の酸化染料染色における染色条件の影響, 繊維学会誌, Vol. 63, pp. 205~211 (2007).
4. 吉勝友美, 坂田佳子, 菅井實夫, 上甲恭平; 羊毛繊維の酸化染料染色における含有微量金属の役割, 繊維学会誌, Vol. 63, pp. 264~270 (2007).

総説・解説

1. 「防汚加工概論—表面加工とナノテクノロジー—」, 京都女子大学生生活福祉学科紀要, No. 3, pp. 17~24 (2007).
2. 「ケラチン繊維の酸化染料による染色機構—二環体酸化反応系における新たな提案—」, 名古屋テキスタイル研究会, Vol. 26 No. 3, pp. 13~20 (2007).
3. 「ケラチン物質の可溶化技術とケラチンタンパクの応用」, ファインケミカル (CMC 出版), Vol. 36 No. 12, pp. 33~41 (2007).

研究発表

【国内発表】

1. 上甲恭平, 吉勝友美, 坂田佳子; 羊毛繊維の酸化染料染色における含有微量金属の役割, 平成 19 年度繊維学会年次大会研究発表会, 6 月, 東京 (2007).
2. 岡田倫子, 木村良晴, 上甲恭平; アルカリエッチングによる毛髪断面の走査電子顕微鏡観察, アルカリエッチングによる毛髪断面の走査電子顕微鏡観察, 平成 19 年度繊維学会年次大会研究発表会, 6 月 (2007).
3. Tuyatsetseg chuluun, 竹田満美, 平田雄一, 濱田州博, 上甲恭平; カシミヤ遷移の酸性染色に及ぼすボラ型電解質の助剤効果, 平成 19 年度繊維学会年次大会研究発表会, 6 月 (2007).
4. 武井智子, 太田充, 山本麻美, 上甲恭平; 毛髪のガラス転移点におよぼす水の影響, 熱測定討論会, 9 月, 札幌 (2007).
5. 武井智子, 太田充, 山本麻美, 上甲恭平; 毛髪のエンタルピー緩和と水との作用, 熱測定討論会, 9 月, 札幌 (2007).
6. 上甲恭平, 吉勝友美, 坂田佳子; 羊毛繊維の酸化染料染色における含有微量金属の役割, 日本学術振興会第 120 委員会合同分科会, 10 月, 大阪 (2007).
7. 上甲恭平, 吉勝友美, 坂田佳子; 羊毛繊維の酸化染料染色におけるジスルフィド結合の役割, 第 47 回染色化学討論会, 10 月, 京都 (2007).
8. 岡田倫子, 木村良晴, 上甲恭平; 酵素エッチング—SEM 法による各種毛髪繊維断面の形態観察, 平成 19 年度繊維学会秋期大会研究発表会, 10 月, 京都 (2007).

【国際発表】

1. Kyohei Joko, Yumi Yoshikatsu and Keiko Sakata; FUNCTION OF THE DISULPHIDE BOND ON DYEING OF KERATIN FIBER WITH OXIDATION DYES, 15th International Hair-Science Symposium, Kloster Banz, (2007).

講演

1. 「防汚加工：表面加工とナノテクノロジー」, 群馬県繊維工業試験場, 研究発表会特別講演 3 月 16 日 (2007).
2. 「羊毛繊維の浸透性と染着挙動」, 羊毛研究会, 一ノ宮, 7 月 13 日 (2007).
3. 「毛髪構造に由来するプロテクト機能とダメージ」, 技術情報協会, 東京, 9 月 27 日 (2007).
4. 「羊毛繊維の表面特性と表面加工」, 羊毛研究会, 一ノ宮, 10 月 12 日 (2007).
5. 「ケラチン繊維に対する酸化染料の染着機構—その 2—」, 第 33 回繊維応用技術研究会, 大阪, 12 月 7 日 (2007).

その他：講義

1. 「仕上げ加工とその動向, 平成 18 年度京都市中小企業技術研修：染色基礎コース」, 京都市産業技術研究所繊維技術センター, 2 月 16 日 (2007).
2. 「繊維素材」, 平成 18 年度みやこ技塾 京都市中小企業技術者研修, 京都, 9 月 7 日 (2007).
3. 「精練・漂白 I」平成 18 年度 染色大学, 名古屋, 10 月 18 日 (2007).
4. 「精練・漂白 II」平成 18 年度 染色大学, 名古屋, 11 月 1 日 (2007).

鈴木依子講師

論文

1. Kazuhiro Shimoyama, Yumi Chiba, Yoriko Suzuki; The effect of awareness on the outcome of oral health performed by home care service providers, *Gerodontology*, Vol. 24 No. 4, pp. 204-210 (2007).

研究ノート

1. 鈴木依子; 心臓リハビリテーションを続ける虚血性疾患患者のエンパワメントのプロセスについて, *ソーシャルワーク研究*, Vol. 32 No. 4, pp. 52~58 (2007).

研究発表

【国内学会】

1. 寫末憲子, 鈴木依子, 滝波順子, 山田嘉子, 石橋智昭, 小谷野亘; ホームヘルパーが自分の判断で行っていること (第2報): その理由, *日本介護福祉学会*, 10月 (2007).
2. 山田嘉子, 滝波順子, 寫末憲子, 鈴木依子, 石橋智昭, 小谷野亘; 事業所・サービス提供責任者: ヘルパーの意見, *日本介護福祉学会*, 10月 (2007).

田中由紀子准教授

講義等その他の活動

日本赤十字社赤十字奉仕団活動事例集 (平成19年度) 2007, 10月
 所属学会~日本介護福祉学会, 日本生活学会, 日本社会医学会
 学会・公的委員~介護福祉士国家試験実技試験委, 伊藤国際教育交流財団評議員

千葉真理子講師

著書

1. 千葉真理子「生活支援の社会福祉学」(古川孝順 編) 一第2部 生活支援施策の展開 第5章 消費者保護制度, pp. 71~81 (共著) (有斐閣), 7月 (2007).

論文

1. 千葉真理子, 下村雅昭, 浜崎博; 居住区内維持期リハビリテーション参加者の不安感と経済的負担度に関する調査, *心臓リハビリテーション*, Vol. 12 No. 1, pp. 10~12 (2007).

研究ノート

1. 千葉真理子, 下村雅昭, 浜崎博; 介護保険改正に見る心臓リハビリテーション患者に対する長期ケアの可能性について, *運動療法研究会誌*, Vol. 9 No. 1, pp. 10~12 (2007).
2. 千葉真理子; 社会福祉学におけるケーススタディの現状—日本社会福祉学会機関誌「社会福祉学」掲載論文を資料として—現代社会研究科論集1号, pp. 79~91 (2007).

Proceedings

1. Mariko Chiba, Masaaki Shimomura, Hiroshi Hamazaki; Attitude toward Social Welfare Services among Ischemic Heart Disease Patients, the Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise, pp. 63-68 (2007)

研究発表

【国内学会】

1. 地域における医療サービス利用者の生活状況から見た支援の方向性についての研究, *日本地域福祉学会*, 6月 (2007).
2. 千葉真理子, 羽田龍彦, 下村雅昭, 浜崎博; 心臓リハビリテーション参加者の抑うつと社会経済状況に関する調査, *日本心臓リハビリテーション学会*, 7月 (2007).

中村保幸教授

著書

1. 中村保幸, 心筋梗塞症の疫学 pp. 15~20. In 吉野秀朗編「心筋梗塞症」メジカルビュー社, 東京 2007年5月1日

論文

【英文】

1. Okamura T, Tanaka H, Miyamatsu N, Hayakawa T, Kadowaki T, Kita Y, Nakamura Y, Okayama A, Ueshima H; The relationship between serum total cholesterol and all-cause or cause-specific mortality in a 17.3-year study of a Japanese cohort. *Atherosclerosis* 2007; 190(1): 216-223.
2. Hozawa A, Murakami Y, Okamura T, Kadowaki T, Nakamura K, Hayakawa T, Kita Y, Nakamura Y, Okayama A, Ueshima H; Relation of Adult Height with Stroke Mortality in Japan—the NIPPON DATA80— *Stroke* 2007; 38(1): 22-26.
3. Tsujita Y, Nakamura Y, Zhang Q, Tamaki S, Nozaki A, Amamoto K, Kadowaki T, Kita Y, Okamura T, Horie M, Ueshima H; The Association between High-Density Lipoprotein Cholesterol Level and Cholesteryl Ester Transfer Protein TaqIB Gene Polymorphism is Influenced by Alcohol Drinking in a Population-Based Sample. *Atherosclerosis* 2007; 191: 199-205.
4. Nakamura Y, Tabara Y, Miki T, Tamaki S, Kita Y, Okamura T, Ueshima H; Both Angiotensinogen M235T and α -Adducin G460W Polymorphisms are Associated with Hypertension in the Japanese Population. *J Hum Hypertens* 2007; 21: 253-255.
5. Kita Y, Turin TC, Rumana N, Sugihara H, Morita Y, Hirose K, Okayama A, Nakamura Y, Ueshima H; Surveillance and measuring trends of stroke in Japan: The Takashima Stroke Registry (1988–present). *Int J Stroke* 2007; 2(2): 129-132.
6. Nakamura Y, Turin TC, Kita Y, Tamaki S, Tsujita Y, Kadowaki T, Murakami Y, Okamura T, Ueshima H; The Associations of Obesity Measures with the Metabolic Risk Factors in a Community-based Population in Japan. *Circ J* 2007; 71: 776-781.
7. Tamaki S, Nakamura Y, Yoshino T, Matsumoto Y, Tarutani Y, Okabayashi T, Kawashima T, Horie M; Change of medication to candesartan from valsartan is effective for patients with morning hypertension (ATOM-Convert C study). *Jpn Pharmacology and Therapeutics* 2007; 35(4): 373-377.
8. Kadota A, Hozawa A, Okamura T, Kadowaki T, Nakamura K, Murakami Y, Hayakawa T, Kita Y, Okayama Y, Nakamura Y, Ueshima H; Relationship between metabolic risk factor clustering and cardiovascular mortality stratified by high blood glucose and obesity: NIPPON DATA90, 1990-99. *Diabetes Care* 2007; 30(6): 1533-1538.
9. Nakamura Y, Ueno Y, Tamaki S, Kadowaki T, Okamura T, Kita Y, Miyamatsu N, Sekikawa A, Takamiya T, El-Saed A, Sutton-Tyrell K, Ueshima H; Fish Consumption and Early Atherosclerosis in Middle-Aged Men. *Metabolism* 2007; 56: 1060-1064.
10. Turin TC, Kita Y, Murakami Y, Rumana N, Sugihara H, Morita Y, Hirose K, Okayama A, Nakamura Y, Ueshima H; Increase of stroke incidence after weekend regardless of traditional risk factors: Takashima Stroke Registry, Japan; 1988-2003. *Cerebrovasc Dis* 2007; 24(4): 328-337.
11. Nakamura Y, Kita Y, Iso H, Ueshima H, Okada K, Konishi M, Inoue M, Tsugane S; Alcohol Consumption, Alcohol-Induced Flushing and Incidence of Acute Myocardial Infarction among Middle-aged Men in Japan—Japan Public Health Center-based Prospective Study—*Atherosclerosis* 2007; 194: 512-516.
12. Turin TC, Kita Y, Rumana N, Sugihara H, Morita Y, Hirose K, Okayama A, Nakamura Y, Ueshima H; Registration and surveillance of acute myocardial infarction in Japan—monitoring an entire community by the Takashima AMI Registry: the system and design. *Circ J* 2007; 71: 1617-1621.
13. Hozawa A, Okamura T, Kadowaki T, Murakami Y, Nakamura K, Hayakawa T, Kita Y, Nakamura Y, Okayama A,

- Ueshima H; Is weak association between cigarette smoking and cardiovascular disease mortality observed in Japan explained by low total cholesterol?: NIPPON DATA80. *Int J Epidemiol* 2007; 36(5): 1060-1067.s
14. Abbott RD, Ueshima H, Rodriguez BL, Kadowaki T, Masaki KH, Willcox BJ, Sekikawa A, Kuller LH, Edmundowicz D, Shin C, Kashiwagi A, Nakamura Y, El-Saed A, Okamura T, White R, Curb JD; Coronary Artery Calcification in Japanese Men in Japan and Hawaii. *Am J Epidemiol* 2007; 166(11): 1280-1287
 15. Hozawa A, Okamura T, Kadowaki T, Murakami Y, Nakamura K, Hayakawa T, Kita Y, Nakamura Y, Okayama A, Ueshima H; Serum-gamma-glutamyltransferase (GGT) predicts cardiovascular disease mortality among Japanese women whose prevalence of drinking was extremely low. *Atherosclerosis* 2007; 194(2): 498-504.
 16. Turin TC, Kita Y, Murakami Y, Rumana N, Sugihara H, Morita Y, Hirose K, Okayama A, Nakamura Y, Ueshima H; Increase of stroke incidence after weekend regardless of traditional risk factors: Takashima Stroke Registry, Japan; 1988-2003. *Stroke in press*
 17. Choo J, Ueshima H, Jang Y, Sutton-Tyrrell K, El-Saed A, Kadowaki T, Takamiya T, Okamura T, Ueno Y, Nakamura Y, Sekikawa A, Curb JD, Kuller LH, Shin C; Difference in carotid intima-media thickness between Korean and Japanese men. *Ann Epidemiol in press*
 18. Sekikawa A, Ueshima H, Sutton-Tyrrell K, Kadowaki T, El-Saed A, Okamura T, Takamiya T, Ueno Y, MD, Evans RW, Nakamura Y, Edmundowicz D, Kashiwagi A, Maegawa H, Kuller LH; Intima-media thickness of the carotid artery and the distribution of lipoprotein subclasses in men aged 40-49 between Whites in the U.S. and the Japanese in Japan for the ERA JUMP Study. *Metabolism in press*
 19. Kadowaki S, Okamura T, Kadowaki T, Hozawa A, Nakamura K, Kadota A, Hayakawa T, Okayama A, Saito S, Nakamura Y, Ueshima H; Relationship of elevated casual blood glucose level with coronary heart disease mortality in Japan—NIPPON DATA 80. *Diabetologia in press*
 20. Yamamoto T, Nakamura Y, Atsushi Hozawa A, Okamura T, Kadowaki T, Hayakawa T, Murakami Y, Kita Y, Okayama A, Abbott RD, Hirotsugu Ueshima H; Cause-specific and all-cause mortality in individuals with low risk status for cardiovascular disease in the Japanese population, NIPPON DATA80. *Cir J in press*
 21. Kato N, Miyata T, Tabara Y, Katsuya T, Yanai K, Hanada H, Kamide K, Nakura J, Kohara K, Takeuchi F, Mano H, Yasunami M, Kimura A, Kita Y, Ueshima H, Nakayama T, Soma M, Hata A, Fujioka A, Kawano Y, Nakao K, Sekine A, Yoshida T, Nakamura Y, Saruta T, Ogihara T, Sugano S, Miki T, Tomoike H; High-Density Association Study and Nomination of Susceptibility Genes for Hypertension in the Japanese National Project. *Hum Mol Genet in press*

【邦文】

1. 中村保幸；わが国の心筋梗塞発症・死亡率の年次推移 京都女子大学生生活福祉学科紀要 2007；3：7～11.
2. 中村保幸；卵摂取と心筋梗塞発症の関連 臨床栄養 2007；110（5）：478～479.
3. 松尾信郎，山田哲博，中江一郎，中村保幸，内田康和，佐藤祐一，松本直也，堀江稔；軽度から中等度の本態性高血圧症患者の Augmentation index 測定による評価—アンジオテンシン受容体拮抗薬の効果—薬理と治療 2007；35（7）801～7.

報告書

1. 中村保幸；平成 17～18 年度科学研究費補助金成果報告書 基盤研究（C）課題番号 17590563 研究課題名：動脈硬化予防のための日本人と日系ハワイ人におけるメタボリック症候群に関する研究 2007 年 5 月
2. 上島弘嗣，中村保幸；厚生労働科学研究補助金（原発性高脂血症に関する調査研究）分担研究報告書：IIb 型高脂血症における動脈硬化リスク集積と心血管死亡—コホート研究 NIPPON DATA90 での検討

研究発表

【国際会議】

1. J D Curb, Robert D Abbott, Lon R White, Beatriz L Rodriguez, Kamal H Masaki, Bradley Wilcox, Akira

- Sekikawa, Lewis H Kuller, Chol Shin, Atsunori Kashiwagi, Yasuyuki Nakamura, Takashi Kadowaki, Tomonori Okamura, Hirotsugu Ueshima; Coronary Artery Calcification in Japanese Men in Japan and Hawaii: A Comparison of Prevalence and Risk Factor Relationships. <American Heart Association 47th Annual Conference on Cardiovascular Epidemiology and Prevention in association with the Council on Nutrition, Physical Activity, and Metabolism. Feb 28-Mar 3, 2007. Orlando, FL>
2. Sayaka Kadowaki, Takashi Kadowaki, Akira Sekikawa, Tomonori Okamura, Tomoko Takamiya, Yasuyuki Nakamura, Aiman El-Saed, Atsushi Hozawa, Robert D Abbott, Hirotsugu Ueshima; Height and the Waist Circumference Criterion in the Metabolic Syndrome in Japanese Men. <American Heart Association 47th Annual Conference on Cardiovascular Epidemiology and Prevention in association with the Council on Nutrition, Physical Activity, and Metabolism. Feb 28-Mar 3, 2007. Orlando, FL>
 3. Yasuyuki Nakamura, Hirotsugu Ueshima, Nagako Okuda, Aya Higashiyama, Yoshikuni Kita, Takashi Kadowaki, Tomonori Okamura, Yoshitaka Murakami, Akira Okayama, Soheli Reza Choudhury, Beatriz Rodriguez, J David Curb, Jeremiah Stamler; Adiponectin and Nutrient Intakes Among Japanese in Japan and Hawaii: The INTERLIPID Study. <American Heart Association 47th Annual Conference on Cardiovascular Epidemiology and Prevention in association with the Council on Nutrition, Physical Activity, and Metabolism. Feb 28-Mar 3, 2007. Orlando, FL>
 4. Takashi Kadowaki, David J Curb, Robert D Abbott, Akira Sekikawa, Chol Shin, Tomonori Okamura, Tomoko Takamiya, Yasuyuki Nakamura, Aiman El-Saed, Lewis H Kuller, Hirotsugu Ueshima; Intima-Media Thickness of the Carotid Artery and Associated Risk Factors in Japanese Men in Japan and Hawaii. <American Heart Association 47th Annual Conference on Cardiovascular Epidemiology and Prevention in association with the Council on Nutrition, Physical Activity, and Metabolism. Feb 28-Mar 3, 2007. Orlando, FL>
 5. Yasuyuki Nakamura, Hirotsugu Ueshima, Tomonori Okamura, Takashi Kadowaki, Takehito Hayakawa, Yoshikuni Kita, Robert D Abbott, Akira Okayama; for NIPPON DATA80 Research Group. A Japanese Diet and 19-Year Mortality: NIPPON DATA80. <American Heart Association Scientific Sessions 2007, November 4-7, 2007, Orlando, FL>

【国内学会】

1. 寶澤篤, 村上義孝, 岡村智教, 門脇崇, 喜多義邦, 上島弘嗣, 早川岳人, 中村保幸, 岡山明; 身長と脳卒中の関連—NIPPON DATA80—<第17回日本疫学会学術総会 2007年1月26, 27日, 広島市>
2. 門脇沙也佳, 門脇崇, 関川暁, 前川聡, 岡村智教, 高宮朋子, 中村保幸, 西尾善彦, A El-Saed, 寶澤篤, RD Abbott, 柏木厚典, 上島弘嗣; 腹囲が85 cm未満では, メタボリックシンドロームの危険因子の集積が身長と逆比例する <第17回日本疫学会学術総会 2007年1月26, 27日, 広島市>
3. 門脇崇, 岡村智教, 喜多義邦, 上島弘嗣, Akira Sekikawa, Aiman El-Saed, Lewis Kuller, 中村保幸; 腹部脂肪蓄積と冠動脈石灰化との関連; 地域ベースによる日米比較 <第17回日本疫学会学術総会 2007年1月26, 27日, 広島市>
4. 郭劉, 寶澤篤, 村上義孝, 齋藤重幸, 坂田清美, 中川秀昭, 岡山明, 奥田奈賀子, 門脇崇, SR チョウドリ, 喜多義邦, 中村保幸, 上島弘嗣; Dietary factors related to the clustering of cardiovascular risk factors related to metabolic syndrome in Japanese population: The INTERLIPID Study. <第17回日本疫学会学術総会 2007年1月26, 27日, 広島市>
5. 門田文, 岡村智教, 寶澤篤, 中村幸志, 村上義孝, 門脇崇, 早川岳人, 喜多義邦, 岡山明, 中村保幸, 上島弘嗣; 脳卒中家族歴, 高希有厚家族歴と脳梗塞死亡の検討, NIPPON DATA80, 1980-1999 <第17回日本疫学会学術総会 2007年1月26, 27日, 広島市>
6. Yasuyuki Nakamura, Hirotsugu Ueshima, Tomonori Okamura, Takashi Kadowaki, Takehito Hayakawa, Yoshikuni Kita, Akira Okayama; Healthy Lifestyle and 19-year Mortality: NIPPON DATA80, 1980-99. <第71回日本循環器学会総会・学術集会 2007年3月15日~17日, 神戸>
7. Tanvir C Turin, Yoshikuni Kita, Yoshitaka Murakami, Nahid Rumana, Hideki Sugihara, Yutaka Morita, Kunihiko

Hirose, Akira Okayama, Yasuyuki Nakamura, Hirotsugu Ueshima; Increase of Stroke Incidence During the Spring Season in a Japanese population: Takashima Stroke Registry, 1988-2003. <第71回日本循環器学会総会・学術集会2007年3月15日～17日, 神戸>

8. Nahid Rumana, Tanvir Chowdhury Turin, Yoshikuni Kita, Yoshitaka Murakami, Hideki Sugihara, Yutaka Morita, Kunihiko Hirose, Akira Okayama, Yasuyuki Nakamura, Hirotsugu Ueshima; Incidence of Acute Myocardial Infarction in Spring is Higher than Other Seasons in Older Male; Takashima Cardio-cerebrovascular Disease Registry, 1988-2003. <第71回日本循環器学会総会・学術集会2007年3月15日～17日, 神戸>
9. 寶澤篤, 岡村智教, 村上義孝, 門脇崇, 中村幸志, 早川岳人, 喜多義邦, 中村保幸, Robert D Abbott, 岡山明, 上島弘嗣; 中壮年期男性では高血圧と喫煙により約60%の循環器死亡が説明される。NIPPON DATA80. <第30回日本高血圧学会総会2007年10月25～27日, 沖縄>
10. 高嶋直敬, Sohel Reza Choudhury, 寶澤篤, 岡村智教, 門脇崇, 村上義孝, 中村幸志, 奥田奈賀子, 喜多義邦, 早川岳人, 中村保幸, 岡山明, 上島弘嗣; アルコール摂取頻度別血圧と循環器死亡リスク—NIPPON DATA90—<第30回日本高血圧学会総会2007年10月25～27日, 沖縄>
11. 環愼二, 中村保幸, 田原康玄, 岡村智教, 喜多義邦, 門脇崇, 辻田靖之, 堀江稔, 三木哲郎, 上島弘嗣; 地域一般住民における脳卒中, 心筋梗塞とAGTR1遺伝子多型, 背景因子とその関連 <第30回日本高血圧学会総会2007年10月25～27日, 沖縄>
12. 平和伸仁, 田原康玄, 喜多義邦, 勝谷友宏, 大久保孝義, 目時弘仁, 菊谷昌浩, 環愼二, 中村保幸, 杉本研, 柴木宏美, 小原克彦, 小川桃子, 谷津圭介, 志和忠志, 今井潤, 上島弘嗣, 萩原俊男, 三木哲郎, 梅村敏; 大規模日本人一般集団サンプルを用いたAngiotensinogen 遺伝子 M235T 多型と高血圧の関係 <第30回日本高血圧学会総会2007年10月25～27日, 沖縄>
13. 環愼二, 中村保幸, 堀江稔; 課程血圧を外来受診時に持ってくることを規定する因子の検討 <第30回日本高血圧学会総会2007年10月25～27日, 沖縄>

講演

1. 「栄養と循環器疾患」第4回甲賀・湖南循環器談話会 2007年6月7日 @ 水口センチュリーホテル
2. 「第42回日本アルコール・薬物医学会総会ディベート「日本人の適量飲酒はどれくらいか? 適量は純20gまでか?」」第42回日本アルコール・薬物医学会総会, 大津, 2007年9月28～29日

講義等その他の活動

主な所属学会 日本循環器学会 (評議員: '94年4月～),
日本循環器管理研究協議会 (評議員: 2001～),
日本心臓病学会 (Fellow, FJCC 2002～), 日本内科学会,
American College of Cardiology (Fellow, FACC 1990～),
European Society of Cardiology (Fellow, FESC 2002～),
編集委員 International Journal of Cardiology: Editorial Board 2000年～
Atherosclerosis: Editorial Board 2006年～

山田耕造教授

論文

1. 生活保護費の支給に係る障害基礎年金の収入認定をめぐる問題, 京都女子大学生生活福祉学科紀要, 第3号, pp. 25～37 (2007).

講義等その他の活動

所属学会 日本社会保障法学会, 日本労働法学会, 民主主義科学者協会法律部会,
公的委員 近江八幡市障害福祉計画策定委員会会長 (2006.8～2007.3)

京都女子大学生生活福祉学科紀要投稿規定

(平成 2004 年 12 月 1 日制定)

1. 原稿は生活福祉学科に関係のある原著論文、総説、自由論叢、研究室だより、学級、卒業生だより、実習記および見学記などとする。投稿者の制限は設けない。
 2. 原稿の採否、分類は、編集委員会に一任とする。編集委員会は必要により外部識者に査読を依頼する。また、原稿中の字句については、加除、修正を行うことがある。
 3. 原著論文は他誌に未発表のものとする。
 4. 原稿はワープロを使用し、印字した原稿と共にフロッピーディスクに書き込んで提出する。
 5. 原稿の書き方は下記の通りとする。
 - (1) 原著論文は表題頁、英文抄録 (250 語以内)、本文、文献、図説、表、図の順にまとめる。
 - (2) 原著論文の本文は可能な限り見出を付け I. はじめに、II. 方法、III. 結果、IV. 考察 (V. 謝辞) の順とする。
 - (3) 原著論文は表題の下に著者名を書き、つづいて英文表題とローマ字著者名を記載する。続いて著者の所属機関名および住所、連絡先 (含 Email address) を和文、英文で記す。
 - (4) 文章はひらかな、当用漢字を用い、現代かなづかいにより、化学用語は文部省学術用語による、外国語音訳にはカタカナを用いる。
 - (5) 本文の区分はポイントシステムにより、大見出し、中見出し、および小見出しを明確にする、なお、小見出し以下の区分はアルファベットによる。

[例] II. 方法

 1. 生活習慣調査
 - 1) 食品等摂取量・頻度の調査
 - A. 飲酒量
 - (6) 句読点およびカッコには 1 こまを与える。ハイフンは 1 こまの中に明瞭に書く。新しい行の初めは 1 こまあける。
 - (7) 一般に通用している物質名、術語などに対しては外国語を用いないこととする。
 - (8) 数字はすべてアラビア数字を用い、数量は原則として C.G.S. 単位を用いる。
 - (9) 表、図および写真の番号は表 1、表 2、…図 1、図 2、…のように表わし、表の説明は表の上を書く。図の説明は、別の用紙にまとめて書く。
 - (10) 図、表および写真は本文中に挿入箇所を明示して、別に添付する。
 - (11) 本文中の引用文献番号は出現順に両カギ括弧 [] をつけて本文と同じ大きさで書く。文献は本文中の文献の項目に番号順に並べる。
 - (12) 引用文献が雑誌の場合は著者名、表題名、雑誌名、年号、巻数、頁数の順に書き、引用文献の略し方は原則として日本化学総覧および Chemical Abstracts の規定による。著者が 7 名以上ある場合は 3 名まで記し、残りの著者は その他、または et al. と略す。

例) Hines LM, Stampfer MJ, Ma J, Gaziano JM, et al. Genetic variation in alcohol dehydrogenase and the beneficial effect of moderate alcohol consumption on myocardial infarction. N Engl J Med 2001; 344: 549-555.
 - (13) 引用文献が書籍の場合は 著者名: 論文名, in 書名, (編集者名), 版数, 発行者, 発行地名, 発行年 (西暦), 起始—終了頁 を記入する。

例) 藤原久義: 心臓腫瘍 in 心臓病学 (河合忠一編), 初版, 朝倉書店, 東京, 1986 年, pp784-789.
6. 校正は著者が行うことを原則とする。総説、原著論文、自由論叢については希望者に対し別刷 20 部を贈呈する。それ以上の希望数に対しては実費を申しうける。
7. 紀要に掲載された総説、原著論文、自由論叢、その他全ての著作権は京都女子大学家政学部生活福祉学科に属すものとする。

編集委員 ○印は委員長

石田 一紀 井上千津子 ○下村 雅昭 上甲 恭平 中村 保幸
山田 耕造

京都女子大学 生活福祉学科紀要 第4号 (非売品)

2008年2月20日 発行

編集委員代表

編集者 下村 雅昭
発行所 京都女子大学家政学部生活福祉学科
〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町 35
電話 075-531-2142
印刷所 中西印刷株式会社
京都市上京区下立売通小川東入
電話 075-441-3155～8
